



ヒロシマの10代がまく種

被爆地学ぶティーンズの夏

第35号

福島県の安積(郡山市)郡山東(同)相馬(相馬市)福島(福島市)4高校の新聞部員8人と、高校生ジュニアライター12人が、原爆資料館の見学や被爆者の話を聴講。被爆地広島 福島第1原発事故の被災地福島について語り合いました。

4班に分かれて意見交換するとともに、16歳で被爆した掛井千幸さん(87)と東広島市11の体験談を一緒に聞きました。

意見交換では、5年前の震災と原発事故について聞きました。郡山東高2年の滝田彩泉さん(17)は当時小学5年生。事の重大さを理解できず、毎日首から放射線計測器を下げて、結果と1日の過剰し方を記録するのが面倒だったそうです。

相馬高のグラウンドには、除染時に出た汚染土が埋められています。部活動に使われていますが、同高2年の大谷巨さん(16)は「普段は意識していない」と言います。安積高1年の服部高太さん(15)は、私たちに對して「地震や原発事故など予期せぬ事態が起きても、ひるまずに立ち向かって」と訴えていました。

掛井さんは、今は平和記念公園になっている天神町の自宅を両親を亡くしました。両親だけでなく家も突然奪われ、親戚の家に身を寄せました。

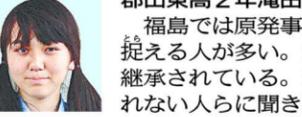
「福島は今も家に帰れない人がいる」と郡山東高2年の山下真季さん(16)が指摘。掛井さんは「広島では自分たちで小屋を建て、豊かになるにつれて徐々に住みやすくしていった。仮設住宅で不具合や不自由を感じる人は、奮起して自分の家を持つ意気込みを持ってほしい」と答えていました。

福島高2年の平野叶太さん(16)による「これからも平和な状態を維持するには」の質問には、「18歳に下がった選挙権を生かして政府に訴えてほしい。戦争では私たちの意見が取り入れられなかったから」と呼び掛けていました。

△ヒース・シース▽
平和や命の大切さをいろんな視点から捉え、広げていく「種」が「ヒース・シース」です。世界中に笑顔の花をたくさん咲かせるため、中学1年から高校3年までの39人が、自らテーマを考え、取材し執筆しています。

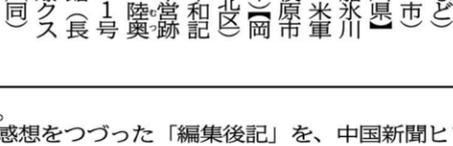
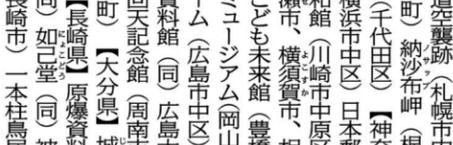
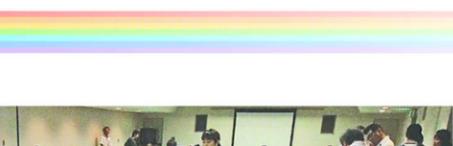
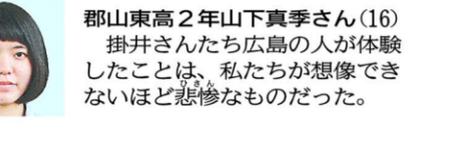
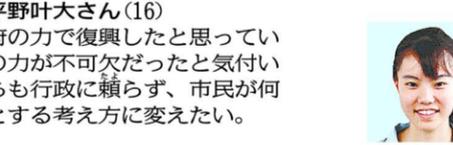
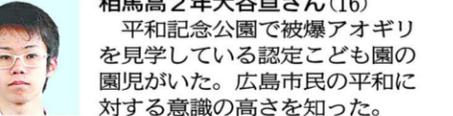
1団体は、福島県内4高校の新聞部員8人。一緒に原爆資料館(広島市中区)や平和記念公園(同)を巡り、被爆者の話を聞き、原爆と原発事故について「継承」をテーマに思いを語り合いました。もう1団体は「子ども平和会議(日本生活協同組合連合会など主催)に集まった、北海道から大分県までの小学生から大学生。ジュニアライター12人も加わり計22人が、地元の戦争について学んだことを紹介し、「私たちができること」について議論しました。

意見を交わし、考えを出し合えば思いは深まります。ヒロシマをフクシマを、そして各地の戦争の歴史を心に刻み、伝えていきます。



郡山東高2年滝田彩泉さん(17)
福島では原発事故を過去の出来事と捉える人が多い。が、広島では71年間継承されている。原発事故で自宅に帰れない人らに聞き取りしたい。

福島高2年横山瑞歩さん(17)
放射能と隣り合わせで暮らすことが日常となり、話題にもならない。もっと太平洋岸の「混雑」の人々に直接話を聞く機会を増やしたい。



相馬高2年大谷巨さん(16)
平和記念公園で被爆アオギリを見学している認定こども園の園児がいた。広島市民の平和に対する意識の高さを知った。

相馬高2年和田山きらりさん(17)
原爆資料館に原寸大の原爆模型があった。そばには被爆直後の広島のパノラマ。小さな原爆が街を破壊したことをより実感した。

安積高2年高橋花奈さん(16)
71年たっても原爆ドームを訪れる人が多くて驚いた。震災で被害を受けた地域の人にしか分からないことを取材したい。

安積高1年服部高太さん(15)
原爆資料館を見学して、体験していない人にも継承することが大事だと思った。

訪問者多く
原爆ドーム
驚いた



原爆投下当時、掛井さん宅の自宅があった場所で、当時の様子を知る福島県の高校生たち

町の復興
市民の力が
不可欠

福島4高校
新聞部

平和への思いつなぐ

今できることに全力

子ども
平和会議

小学生から高校生が、おむね学年ごとに5〜7人で17班になり、大学生らの進行で「核兵器や戦争など争いごとをなくすために私たちができること」を話し合いました。

その後、内容を発表し、全体でアピール文を作りました。小学生の班は「相手の意見を認める」「自分がされて嫌なことをしない」「自分が間違っていたら謝る」「困っている人を助ける」などと発表しました。中学生は「いじめを減らす」「地球温暖化をなくす」「戦争に関する資料を大切に保管する」「選挙に行く」と提案。高校生は「戦争の歴史について被害、加害両面を学ぶ」「無関心でない」「会議や会員制交流サイト(SNS)で発信する」と発言しました。

これらを基にアピール文を作成。議長を務めたジュニアライターの中学3年川岸言統さん(15)が「いろんな考え方を持つ人やいろいろな国の人も手をつなぎ合って明るい未来を築けるようにする」と宣言しました。

参加者100人アンケート

子ども平和会議に参加していた121人のうち100人の10代(小学生47人、中学生32人、高校生20人、大学生1人)が、アンケートに答えてくれました。

オバマ米大統領訪問知ってる？
オバマ米大統領が広島に来たのを知っている人は95人いました。中学生以上は全員知っていました。

これから何をしてほしいか、という問いには、「核廃絶の実現」を求める声が全体の約3分の1、34人と最も多く、「広島の実情」や平和の大切さを世界に伝えてほしい、「戦争をなくし、平和な世界の実現」と続きました。中には「もう一度広島に来てほしい」「今度長崎に」など再び被爆地への訪問を望む声もあり、5月の広島訪問への関心の高さがうかがえました。

山形県の小学6年男子は「力づくでどちらが正しいかではなく、話し合いで解決する事が大切」と感想を述べます。

ヒロシマ伝えたい人・内容は？
両親やきょうだいなど「家族に伝えたい」と68人が答え、次いで友達や学校の人が44人(複数回答)いました。

伝えたい内容は、半数近くの人が、原爆・戦争の恐ろしさや被害、平和の大切さについてでした。「子ども平和会議の内容」も約2割に響かしているのは、昔のことがあったことだとうこと」と回答。札幌市の高校1年女子は、戦争の恐ろしさに加えて「立ち上がった今のヒロシマのこと」を答えていました。



主に次の場所が、平和学習にお薦めとして挙がりました。

【北海道】北海道空襲跡(札幌市内など) 北方領土館(標津町) 納沙布岬(根室市) 【東京都】昭和館(千代田区) 【神奈川県】横浜外国人墓地(横浜市中区) 日本郵船氷川丸(同)川崎市平和館(川崎市中区) 米軍基地(大和市) 横須賀市 相模原市 など 【愛知県】こども未来館(豊橋市) 【岡山県】岡山シティミュージアム(岡山市北区) 【広島県】原爆ドーム(広島市中区) 平和記念公園(同) 原爆資料館(同) 広島大本営跡(同) 【山口県】回天記念館(周南市) 陸奥記念館(周防大島町) 【大分県】城井1号掩体壕(宇佐市) 【長崎県】原爆資料館(長崎市) 平和公園(同) 如己堂(同) 被爆クスノキ(山王神社、長崎市) 一本柱鳥居(同)

第35号は、高3谷口信乃、岩田壮、岡田春海、鼻岡舞子、福岡華奈、高2坪木菜里佳、溝上希、山田千秋、高1岡田実優、中川碧、岩田央、上長春一、沖野加奈、中3川岸言統、鬼頭里歩、溝上藍、アリス杏奈、中2川岸言織、佐藤西、中1森本柊衣が担当しました。